



もったいないこと、してないかい？



子どもたちが環境問題について身近に感じたり、自分の事として考える事が出来たらいいなと思い、保育者が絵本でおなじみの『もったいないばあさん』の劇をしました。水を出しっぱなしにする、食べ物を残す、紙を無駄遣いするなどの“もったいない”行為を見つけると、すかさずやってくる『もったいないばあさん』。何をしたらもったいないのか、もったいないことをしないためにはどうすると良いのかを劇を通して子ども達と一緒に考えました。



その日の給食の時間、ほうれん草の胡麻和えを食べずにいた A 君。その様子を見ていた友だちが「残したらもったいないよ。お野菜食べると元気になるよ。」と声を掛けると、A 君ははっとした表情になり、一口、また一口と食べ始めました。食べ終わると A 君は「先生、これ美味しかったわ！」と空になったお皿を保育者に見せに来てくれました。

“もったいない”は環境問題を考えるに重要な概念で、“もったいない”という言葉には自然や物に対する敬意・愛などの意思（リスペクト）が込められています。私たち一人ひとりの日々の心掛けが地球環境を守る事に繋がります。小さい頃から“もったいない”が自然に身についてくれたら嬉しいです。これからも様々な活動を通して環境問題を考えていきたいと思っています。

ちきゅうフレンズ



昨年度に引き続き、「ちきゅうフレンズ」というこども向けSDGsプログラムに取り組んでいます。子どもたちは、楽しんで動画を視聴する中で、世界には様々な国があることを知ると同時に、抱えている課題についても知ることが出来ます。ケニアではゾウやサイ等の動物を傷つけ角を売ってお金儲けをしているという話を知り、日本では見ない光景に子どもたちも「かわいそう…」「何で人間と動物は仲良しではないの？」と疑問の声が出ていました。また、生きていく上で飲み水は欠かせない物ですが、水が高くて買えずに困っている国があること等、日本の生活とのあまりの違いに戸惑いや疑問が出て、子どもたちと一緒に考える機会となりました。



12 つくる責任
つかう責任



おじいちゃん、おばあちゃんと畑へGO!



秋に植えた大根（4.5 歳児）とじゃがいも（2.3 歳児）が収穫の時期を迎え、祖父母の方にお手伝いをいただき、「大きくなってかな？」とワクワクしながら一緒に掘りました。

じゃがいも掘りでは、土の中にあるじゃがいもを次々に見つけ「あった♡」と両手いっぱいを持ち上げ、満足そうでした。収穫した大根、じゃがいもは持ち帰ると、「お家でお味噌汁にしたよ」「〇〇のじゃがいも美味しいってみんな（家族）言ってくれた」と話し、自分の作ったものを家族に喜んでもらう嬉しさや喜びに繋がった様子でした。

今年度は、農園が完成し、様々な野菜を育てることができました。水やりや草むしりなどのお世話、生長観察、収穫、クッキングと一連の活動を通して、食に関する興味関心も高まっていきました。これからも子どもたちと栽培活動や食育活動を行い、世話をした野菜を収穫したり食べたりする喜びを知ったり、クッキングをして味わう楽しさを感じたりして、農園活動を精一杯楽しんでいきたいと思っています。



収穫した日に、園では給食の時間に大根の葉はふりかけ、じゃがいもはじゃがバターにして食べました。また、自分たちで育てた野菜を使ってクラスごとにクッキングを行いました。普段は苦手な食べようとしない子どもも興味を示し、「おいしい」と頬張ったり、おかわりしたりする姿が見られました。“食べた”“食べることが楽しい”と思える食の活動になりました。



ふりかけを
山盛りのせたよ



じゃがバター
おいしい♡

ポテトサラダ作り～2 歳児～

子ども達と一緒にポテトサラダを作りました。「やりたい！」と言ってじゃがいもを洗ったり、つぶしたりのお手伝いも意欲的にしてくれました。



じゃがいもを
洗ったよ

じゃが餃子作り～3 歳児～

給食の先生に餃子の皮やカットしたじゃがいも、チーズを用意してもらい、子どもたちは餃子の皮に材料を乗せ、皮を合わせて餃子を作りました。焼ける様子を見て「いいにおい」「早く食べたい」と食欲がそそられていましたよ。



自分で作って食べたよ